

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	鋼構造設計規準見直し小委員会	主 査 名：木村 衛
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：小野徹郎
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	鋼構造設計規準を許容応力度設計法の観点から見直し、「鋼構造設計規準・同解説 - 許容応力度設計法 - 」を刊行する。 2004 年度：規準本文・解説の執筆、各委員分担分の全体調整、脱稿、規準の刊行。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：木村衛(新都市ハウジング協会)；幹事：田川泰久(横浜国大)；委員：青木博文(横浜国大)、五十嵐規矩夫(東工大)、伊藤茂樹(JFE)、井戸田秀樹(名工大)、小野徹郎(名工大)、桑村仁(東大)、多田元英(阪大)、田中敦夫(東京電機大)、中島正愛(京大)、中込忠男(信州大)、増田浩志(宇都宮大)、山田丈富(千葉工大)、三村博明(東京電機大)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2004 年度予算	370,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	第 1 回(2004/5/20 11 名) 疲労、クレーン荷重、許容曲げ応力度、柱はり接合部他原稿審議。第 2 回(6/25 6 名) JIS 関連付録の取扱い、リベットの取扱い、横座屈式、疲労 1、2 案の検討、幅圧比等の審議。第 3 回(2005/1/19 9 名) 運営委員会、構造委員会査読意見回答案の審議(1/27 回答)。これに従った原稿の調整、脱稿 3 月末予定に向けての作業。臨時打合せ(3/2 5 名) 構造用鋼材、柱はり接合部解説の最終調整。断面性能表の審議、序への反映他。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本年度内にて、「鋼構造設計規準・同解説」 - 許容応力度設計法 - の見直し最終原稿を完成させた。 30 年以上見直しの無かった本規準について、以降刊行されてきた他の諸指針類との位置付けを明確にし、「許容応力度設計法」の立場から内容が検討されている。従って他の諸指針類とともに、学生、研究者、構造設計者等に対し有益な図書の一つとして、供されるものとする。2005 年 9 月の刊行予定である。 なお本規準の刊行に伴い、同月東京と大阪にて講習会を予定している。 委員会 HP アドレス：
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 上記の成果に対し、目標は充分達成されていると考える。またスケジュールにおいても、ほぼ当初の予定通りである。
その他評価すべき事項	刊行を予定している規準は、「旧鋼構造計算規準」の内容を考慮し、諸式の根拠や出典等、解説の充実を図るとともに、「現鋼構造計算規準」に対し新しい知見の導入にも心掛けている。